

n

平成18年度中原区区民会議

平成18年7月12日（水）

第1回「地域で支える高齢社会」

-高齢者の健やかな生活を地域でどう支えるか-

平成18年10月18日（水）

第2回「地域の安全・安心をどう守るか」

-子どもの見守り活動を中心に-

平成19年1月23日（火）

第3回「地域の中の商店街」

-地域と商店街の新たな連携を考える-

平成19年3月14日（水）

第4回「平成18年度の区民会議を振り返って」

-地域での取り組み報告と意見交換-

18

平成18年度中原区区民会議報告書

目次

■ 0	はじめに	1
■ 1	第1回「地域で支える高齢社会」 ～高齢者の健やかな生活を地域でどう支えるか～	2
■ 2	第2回「地域の安全・安心をどう守るか」 ～子どもの見守り活動を中心に～	9
■ 3	第3回「地域の中の商店街」 ～地域と商店街の新たな連携を考える～	14
■ 4	区民会議での提案と地域での活動の広がり	21
■ 5	区民会議をきっかけにした新たな活動の広がりこれから	27
資料	今後の検討対象となるテーマ（第2回区民会議資料）	29
資料	委員及び参与名簿	34

■ 中原区区民会議

地域の抱える課題を区民の参加と協働によって解決するため、平成 18 年、中原区区民会議は始まりました。

中原区区民会議は、次のような流れで進められました。

1 会議での検討テーマの決定について

テーマについては、地域社会が抱えているさまざまな課題について委員が日々の活動を通して検討する必要があると考えていること、また区ホームページや市政だより中原区版での広報を通して寄せられたテーマなどの中から、緊急性や重要性を勘案して運営部会において検討し、決めます。



2 テーマに関する現状および課題の把握

テーマとなった事項について、地域で具体的に行われている取り組みなどを手掛かりに、そのテーマの現状や克服すべき課題などを調査・検討します。また、事務局は地域での取り組みについて会議の資料作成ため、取材（写真・ビデオ）に入ります。



3 区民会議での報告

把握されたテーマに関する現状と課題について、そのテーマについて取り組みを行っている団体・区民の方から、報告をしていただきます。併せて、取り組みの様子をビデオ映像などで報告します。



4 区民会議での検討

報告に基づいて、課題の解決策や地域での取り組みのあり方などを検討します。



5 地域社会での取り組み

会議での検討を踏まえて、委員および区役所は地域社会での課題解決に向けた取り組みを推進します。



6 市長および区長への報告

区民会議の 1 年間の活動結果について、市長および区長に報告します。

この報告書では、会議で検討したテーマごとに「報告」、「意見・提案」、「活動の広がり」をまとめ、また、この会議をきっかけに始まった新たな活動の広がりや今後の会議に向けての意見も併せてまとめました。



1

第1回「地域で支える高齢社会」 ～高齢者の健やかな生活を地域でどう支えるか～

日時：平成 18 年 7 月 12 日(水)

午後 6 時～午後 9 時

場所：中原区役所

傍聴：39 人

■報告：丸子地区すこやか活動推進委員、
川崎市社会福祉協議会理事
渡辺政勝



- ・丸子地区では、すこやか活動を老人クラブ、民生委員、ボランティアなどの協力で平成 14 年から 5 会場で実施している。
- ・丸子地区では、丸子玉川リハビリクラブという脳血管障がいの人たちの「閉じこもり、認知症、運動機能低下」の防止を目的としたクラブをつくって、月に 4、5 回活動している。そのリーダーの人たちにもすこやか活動で体操や手話コースなどの指導をしてもらっている。
- ・すこやか活動を始めた年は 1 町会だけだったのが、現在は 5 町会で行われており、活動が点から線になってきた。町内会館だけでなく、平成 18 年に完成した丸子多摩川老人いこいの家でも月 2 回、すこやか活動を実施することになった。
- ・今、一番大きな地域の問題は高齢者の問題だと思っている。一人暮らしのお年寄り行き場がない。地域で住んでいるお年寄りが健康で、本当に毎日楽しく過ごせるような活動にしていきたい。
- ・すこやか活動は、介護予防の目的でおおむね中学校区（51 区）に一つということで、計画では市全体で 60 箇所となっている。中原区では中学校が 8 校あるのに、すこやか活動は 2 カ所のみである。これは何とかしなければならない。社会福祉協議会の問題でもあるし、行政の問題でもあることから、区民会議でじっくり相談していただいて普及させてもらいたい。
- ・活動をみなさんの力で面にして、できるだけ認知症の人を出さないようがんばってきたい。



ボランティアを先生に、みんなで体操
(丸子地区すこやか活動)



手話を交えての合唱も（丸子地区すこやか活動）



■報告：大戸地区すこやか活動推進委員、
「トロッコ押し手の会」事務局長
三川幸子



- ・「トロッコ押し手の会」では、2DK63 m²の部屋を「停車場」として借りて活動をしており、すこやか活動を平成13年から行っている。
- ・日本では、一人に対し介護保険と医療保険が皆保険としてある。病気になると医療保険の割合が大きくなり、介護保険が軽くなる。入院すると医療保険のみ。退院すると医療保険が軽くなっていく。介護保険も医療保険もほどほど使わないで元気でやっていこうじゃないか、というのが今介護予防で行われている高齢社会の現状である。
- ・「トロッコ押し手の会」では、介護予防の部分、介護保険と医療保険がバランスよくいつている部分へ生活支援を行うことを念頭に置いて活動している。
- ・大戸地区では高齢者の栄養失調や脱水が起き、残念に思った。高齢者に住み慣れた街でしっかり食べてもらい、一人で行動する意識を持ち、気持ちの上で自立してもらいたい。
- ・「停車場」の理念がすこやか活動の理念でもある。地域は休息の場であったり、活動の場、会話の場、子どもやお年寄りの成長の場であったりする。子どもとお年寄りの会話は、親子ではできないきずながつくれたりして、非常にいい感化性がある。これからの社会はこういった点で役に立つのが高齢者で、子どもを指導しようというのではなく、自分の生きがいへつなげていく、役に立っているというのが高齢者にとってとても若々しく表れると思っている。
- ・すこやか活動は、心が元気であれば少し病気をしていても参加できるように、「お運び隊」を用意したりして環境をきちんとしていきたい。
- ・活動は自分たちで広げていかないといけないので、点をつなぎ面につながるよう、町会、民生委員とかにお願いもしながら、点のところへみんなで行ったり、出前をしたりしている。みんなで“お互いさま”ができるよう活動している。



輪投げも始まりました
(丸子地区すこやか活動)



会のクライマックスは、2チームに分かれて風船を使ったゲームです(丸子地区すこやか活動)

- ・サロンでのごはんは、1食500円で提供し、月8回、年間3,800食くらい作っている。
- ・シャッターの閉まった商店街を活性化したい、ということで、すこやか活動で商店街事務所を借りてタペストリー展を開いた。「つくる時間」の中で、手慣れたお年寄りに教えてもらったりしながら回し絵などいろいろつくっている。
- ・「MAMAの会」では、すこやか活動の一環としてママ同士がお友達になれるよう、あばの力を貸し出している。区役所と連携して今年で4年目になる。
- ・退職した男性による「男性の会」をつくった。これからまちを動かすのではないかと期待している。
- ・「口の体操」という折りたたみの本を作って、中原区から全国に発信をかけている。
- ・すこやか活動では4世代の交流、異世代交流を行っている。地域のいろいろな人を巻き込むために、例えば以前まちの中で行われた結婚式を実演するなどイベントを打っている。イベントをつくっているのは、主に造形大学の学生たち。
- ・支援活動は、ただではできない。ボランティアだからただということではなく、体を動かしてやってもらったものは量で表してあげたい。絶対に気分だけでは継続できない。この6年間、すこやか活動を続けているが、本当に地域にこういうものがたくさん増えたらいいというのをただただ願って、みなさんの厚意をいただきながら、何をお返ししたらいいんだろうということを盛り込みながらやっているのが、私たち「トロッコ押し手の会」である。

■委員からの主な意見・提案

- ・高齢になってもできるだけ自立して生活できるよう、そのために近隣との交流をもっと深くすることを考えたい。高齢者、体の不自由な方、一人暮らしなどを町内協力して把握していきたい。私は小杉2丁目町内会だが、「高齢者すこやかいきいき運動」というものをやっていきたい。高齢者だけでは企画・運営がなかなか難しいので、こども会のお母さんにも加わってもらって、今までの老人クラブに新しい風を入れていくのがいいと思っている。町会、老人クラブ、ボランティア団体とでできることからやっていきたい。町内会館が一番近く、親しみやすいので、町内会館を拠点に、講座や健康に関することをやっていきたい。
- ・今、高齢者の生き方というのが非常に難しいのではないかと。三川さん、渡辺さんのようにいろいろ相まった形をつくっていけば、建設的な明るい高齢社会ができるのではないかと。町会を中心に活動するのなら、できるだけお互いの意見をよく聞いて、また若い人も参加できるようなプランニングにすれば、生き生きとした高齢社会に結びつい



「トロッコ押し手の会」の活動拠点、
「停車場」（大戸地区すこやか活動）



手洗い体操、お口の体操、転ばない体操
をゆっくりと（大戸地区すこやか活動）



ていくのではないかな。

- ・ どのような社会活動をするにしても、核になる人が非常に大切。中原区はボランティア活動をする人が少ない気がするので、区民会議みたいな場でもっといろいろな人と協力できるような働きかけや声かけをこれからは私個人はやっていきたい。
- ・ この活動のように仕事以外のところで、自分のことだけではなくて、人に手を差し伸べる実践活動ができて人間の幸せに近づいていく、ということを改めて思ったので、自分もその気持ちを持ち続けて頑張りたい。
- ・ 子育てサロンを区内14箇所で行っているが、すこやか活動と合体して、地域の家族となるよう、高齢者と保護者、子どもとの触れ合いの場をつくっていただきたい。
- ・ 区の民生委員児童委員協議会として、学校の垣根を外して交流・連携を図る観点から週に1度、小学校のあいさつ運動を行っている。ボランティアを募集したところ、半数以上が高齢者であり、IDカードを首から下げることがすごくうれしいと言われた。あまり元気でない人も月曜は張り切って出てくる。高齢者もまだまだ役に立ちたいという気持ちをひしひしと感じる。そういった小さなことからだんだん活動が広がっていくことは非常に望ましいことかな、と思っている。
- ・ 三川さんが活動を5、6年続けてきて何が必要なのか、教えてほしい。
 - 何事をするにも、資金がなければできない。その資金をどのような形で集めるのかということは、頭脳の方だと思う。場の提供はするがごはんのお金は個人で出してもらおうとか。行政は行政なりの、できることへの支援をいただきたい。また、お金だけでなく、例えばきゅうりをもらったりだとか、お年寄りにあいさつをしてもらったりだとか、これらも町会のボランティアだと思う。そういうことも換算したら、案外お金が集まったみたいに豊かになってきつつある。しかし、場というのは、地域にはいいこの家くらいしかない。私たちの地域にはなく、場をつくらなければならなかった。だから、場をつくっていくにはどうしたらいいのかも議論していただけたら、地域で子どもから老人まで元気で長生きを、というのができるのではないかなと思っている。(三川氏)
- ・ 以前まちづくり推進委員会でどういった支援が必要か、とアンケートをとった時に、お金はなんとか天下の回りもので来るんじゃないか、人だね、という結果があった。大戸のすこやか活動はまだ1カ所しかないが、活動を広げるために人をその気にさせることができなかったことはあるか。
 - 人材は資源。しかし、確保するには人件費がかかる。長続きするような資源づくりというのは眼中に入れて、中原のコミュニティビジネスという形を認識してい



ボールを使って体操を楽しく（大戸地区
すこやか活動）



“引っぱれー”は、4人で協力して
絵を描く造形隊のアイデア（大戸地
区すこやか活動）

ただきたい。お金、資源について相当に計画よく立てないと、人材、資源は埋もれてなくなってしまうように思う。(三川氏)

- ・人、拠点、財源の3つの条件がそろえば福祉というのは完成とよく聞かすが、財源については結構苦労することは確かだと思う。中原には60の町内会館があるので、すこやか活動を普及するにはそういう所をどんどん利用して、また人材の養成もすれば何とかなるのではないかな。
- ・なぜ、中原区ではすこやか活動を実施しているのが2地区しかないのか。

→一つには行政の宣伝不足ということがあるかもしれない。市のすこやか活動補助金の交付要綱によると、おおむね中学校区または民生委員児童委員協議会単位に対し交付しているが、今日問題提起があったように、実際は町内会などもっと小さい単位で活動が行われており、小学校単位にも交付している。今日の会議を機会に、ぜひすこやか活動をやっていただければ、財政的な支援ができる。まずは、できるところからやっていただければいいのかな、と思っている。(区長)

- ・区PTA協議会を務め、小学生の子どもがいるので子育てが100%の状態だが、今日の報告を聞いて、初めてこういう活動を知り、また自分の両親も地域で支えられているんだと分かり勉強になった。私みたいなお母さんがたくさんいるので、高齢社会についてもっと知ってもらえることができればいいと思っている。
- ・渡辺さんの話を聞いて、老人会とはちょっと違う活動をしていると思った。老人会には行けないけれど、すこやか活動には行きたいという老人もいる。小さな単位でやるのが、実際見ていて一番伸び伸びやっている感じがする。三川さんの話にしても、実際に現場に携わっている人の話はすごく説得力がある。確かに資金以上に人材の確保が大変だと思う。それが最大の課題ではないか。

→大戸のすこやか活動では、介護福祉会から寄席のボランティアに出てもらったり、わくわくプラザからはすこやかコンサートライブで協力してもらったりしている。ネットワークの仕方、工夫の仕方ですぐ人と人が結び合い、そこから波及していく形が“地域力”ではないか。やってみないとだめなんですから、あまり言わないでやってみましょうよ。拠点がいくつにもなったら、出前もします。人的に縦社会を構成するということは、長期間かけて人間資源を教育するという事。このあたりを区からお世話願ったり、こういう人を教育しよう、というようなことをこの会議で検討していただいたりすれば、縦社会が少し潤ってくるのではないかな。老人だけでは進歩しないので、やはり若い力はほしい。

- ・中原区から区民会議を発信基地にして協力者を求めていけば、このすこやか活動もぐっ



“ごはん作り隊”によるお昼ごはん
(大戸地区すこやか活動)



食事の後、歌が生演奏で始まりました
(大戸地区すこやか活動)



と広がってくるのではないか。

- ・「とどろき水辺の楽校」を多摩川河川敷を拠点にして、年代を超えたバリアフリーで行っている。多摩川を中原から発信していこうという、たった一つの目標のために活動している。だから、資金は参加費や地元ロータリークラブなどの基金で、力は全部ボランティアでやっている。そういうことを考えた時に、みんなで一つの目標を持ってやっていたら、高齢者の活動であろうと、若いお母さんの活動であろうとやっていたのではないかな。ぜひ、高齢者のみなさんも若いお母さんも多摩川に一度来て、一緒に仲良く、野草の天ぷらを食べたり、かっぱの川流れをしたりして体験活動をすれば、いろんな活動が広がっていくのではないかな。

■ 会議後の地域での活動の広がり

[地域で]

- ・丸子地区では高齢者を対象者にした「丸子地区すこやか会」を立ち上げ、丸子多摩川老人いこいの家の開所をきっかけに、丸子地区全体で取り組みを始めた（以前は9町会中5町会での「すこやか会」だった）。
- ・「丸子地区すこやか会」の活動を支援するため、12月に「丸子地区すこやか活動支援推進委員会」を立ち上げ、すこやか活動を支援するボランティアを募集した。
- ・木月住吉町会で、「おしゃべり会」の準備を始めた。
- ・小杉地区では「小杉地区福祉の心推進実行委員会」を立ち上げ、小杉地区町内会連合会、小杉地区社会福祉協議会と合同で2月に「福祉の心を共に学び合おう」という講座を開催した。150余名が集まって、地域のボランティア活動や高齢者の生きがいについての話し合いと介護予防体操を行った。
- ・小杉第1・2地区社会福祉協議会合同で、町会、民生委員、老人クラブ、ボランティア団体などが連携し、「わたしの町のすこやか活動推進委員会」の立ち上げについて検討を始めた。
- ・小杉2丁目町会では、高齢者ネットワークの構築について検討を始めた。
- ・「とどろき水辺の楽校」において、高齢者の方に多摩川の昔の様子を伝えてもらうセミナーの開催を予定している。
- ・「多摩川とどろき土手の桜を愛する会」による桜の記念植樹に地域の高齢者に参加してもらえるよう、老人会を通じて呼びかけをしている。
- ・大戸地区の子育てサロンでは、地域の引きこもりがちなお年寄りに声をかけ、子育てサロンの案内やスタッフとして参加してもらい、ボランティア活動を通して元気に



商店街の事務所を借りて、会で作ったタペストリーを展示（大戸地区すこやか活動）



この展覧会には、地元の商店街を活性化したい、との思いも込められています（大戸地区すこやか活動）



なってもらった。

- ・等々力老人いきいの家で開催している子育てサロンでは、高齢者と子どもがあいさつをして、ふれあいコミュニケーションを図っている。

[行政として]

- ・「わたしの町のすこやか活動推進委員会」の趣旨を町内会、老人クラブ、地区民生委員児童委員協議会、ボランティア活動団体などに説明し、啓発活動を行った。
- ・中原区社会福祉協議会と連携し、他区の活動団体を招き地区社会福祉協議会関係者を対象に「わたしの町のすこやか活動推進委員会」の研修を3月8日に開催した。
- ・西丸子小学校区で活動しているボランティア団体に小学校区の町会長、民生委員、老人クラブ、社会福祉協議会との連携を勧め、関係調整し、ネットワーク作りを行った。平成19年度に「わたしの町のすこやか活動推進委員会」の活動団体として申請予定である。
- ・「丸子地区すこやか活動支援推進委員会」が行ったボランティア募集を支援するため、インターネットによる広報を行った。
- ・「小杉地区福祉の心推進実行委員会」の活動を支援する広報を行った。
- ・区民を対象に、介護予防への関心を高め、保健福祉センターが実施する各種介護予防事業に積極的に参加し、自身の介護予防に努めることができる人の育成を始めた。意識や知識を高め、介護予防活動を行う自主グループのボランティアとして活動できる人の育成をめざしている。
- ・高齢者の心身の健康の維持、保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助、支援を包括的に行うため設置した地域包括支援センターで高齢者の実態把握に取り組んでいる。
- ・中原区老人クラブの健康づくり活動、地域づくり活動に職員を派遣し、支援を行った。
- ・介護予防の自主活動団体に、地域の町会や地区社協などと連携した「すこやか活動」の取り組みを呼びかけた。
- ・福祉まつりにおいて、高齢者に必要な支援を包括的に行う拠点としての地域包括支援センターの広報を行った。

日時：平成 18 年 10 月 18 日(水)

午後 6 時～午後 8 時 14 分

場所：中原区役所

傍聴：20 人



■報告：川崎市立中原小学校校長
白井達夫

- ・子どもの登下校の安全を守るお手伝いを地域の方をお願いして、安全パトロール隊が結成された。
- ・子どもを守ることと同時に、子どもを育てることの両立を目指したい。
- ・子どもを不審者から守るのに、行き帰りは親が見守り、学校の中では遮断するといったふうに子どもを大人の手に引き寄せたまましていると、その子どもを守ることが、実は人と関わりを持つ、人を信じる、愛するといった心情を育て切れないことにつながるのではないかと。
- ・子どもの笑顔がどこにあるかを考えたときに、休み時間や放課後はとても大事ではないかと思う。
- ・どんなふうに子どもを守っていくか、一つ目は子ども自身の自ら守る力を育てることがあるのではないかと。中原小学校では年 2 回防犯教室を開催し、安全指導員による指導を受けている。もう二つ目は学校の敷居を低くし、いろいろな人に学校に入ってもらい、見守ってもらうということ。夏休みのふれあいスクールでは、フロンターレや富士通レッドウェーブ、地域の方などに講座を開いてもらっている。三つ目として、毎朝生徒と先生とが校門に立ってあいさつ運動を行っている。
- ・あいさつ運動を学校だけでなく地域に広げていくというのは、ご近所づくりだと思っている。
- ・中原小学校の恵まれた環境として、一つは P T A によるパトロールや子ども 110 番がある。二つ目は、小学校と中学校の連携が強く、宮内小学校、宮内中学校を合わせた 3



宮内・中原安全パトロール隊による中原
小学校児童の見守り活動



中原小学校校門前でのあいさつ運動

校で協力して取り組みを行っている。三つ目に地域教育会議が活発なこと。中原小学校、宮内小学校、宮内中学校の3校で開催している。

- ・中学校区防犯会議で安全パトロール隊の提案を行った。狙いの一つ目は、見守り。二つ目は、抑止効果。安全パトロール隊が昼間巡回していると犯罪者が入りにくいまちになるのではないかと。三つ目は、あいさつ。子どもたちにパトロールのジャンパーを着ている人には積極的にあいさつをするよう、指導している。
- ・教職員が夏休みに学区を回って、安全指導員の指導を受けながら「安全マップ」を作成した。盲点になっているようなところが見えた。
- ・保護者と安全パトロール隊との連携が大事。
- ・子どもが実際に危険な目に遭った際、防犯ブザーを鳴らしたり大声を出したりするのは難しいと思う。ただ、子どもの意識を高める上で指導は今後もしっかり行っていく。
- ・子どもたちに朝会で安全パトロールや子ども110番を紹介している。また、見守ってくれている近所を大切にすると教えている。
- ・地域行事に子どもを積極的に参加させている。

■委員からの主な意見・提案

- ・中原区民生委員児童委員協議会として、あいさつは生活の基本となることから、また学校との垣根をできるだけ低くしたいことから、あいさつ運動を始めた。
あるまちでは、お年寄りが下校時間になると玄関先に椅子を持ち出して腰かけ、子どもたちにあいさつをしていた。ところが何日か見かけないことがあり、子どもたちが気にかけて先生にその話をたところ、体調のすぐれないそのお年寄りを救うことができたという。
- ・青少年指導員とPTAだけでは見守り活動をやり切れないところがあるから、ぜひ町内会などにも輪を広げていきたい。
- ・事件については警察とも情報共有して、どの辺りにポイントを置いたらよいか検証をしたらどうだろうか。また、川崎は外から来ている人がたくさんいるので、町内会にできるだけ取り込んで行事に参加してもらえよう雰囲気づくりをお願いしたい。
- ・自分の子どもが宮内中学校だったが、最初はあいさつ運動に自分の親が立つということで子どもたちも避けるようなこともあった。何年も続くうちそれが当たり前になって、子どもたちからあいさつをするようになった。いまだにまちの中で当時の子どもたちに会うとあいさつをしてくれる。
- ・今の学校は門が閉まっている。それでいて災害避難場所にもなっている。安全とコミュ



中原小学校、宮内小学校、宮内中学校の
3校で防犯について地域懇談会を開催



中原小学校で作成した安全マップ



ニケーションをどうバランスとっていくのが難しい。

- ・地域力を高めていくことが大事ではないか。地域で叱り育て、地域で活動していくことを心がけていきたい。また、学校だけでなく地域で見守りを進めていくために、この区民会議を通じて率先して地域の人たちに取り組みを広めていきたいので、協力をお願いしたい。
- ・子どもたちの問題は、日本全体の問題になっている。対人不安は大人もなっている。学校だけでなく、社会の誰とでもあいさつできるような、また知らない人から叱られても普通という感じのそういう社会づくりにならないと、子どもたちの問題解決にならないのではないかな。
- ・中原区は商店街の活動が非常に盛んだが、安全な商店街、お買い物しやすい商店街をつくっていく一環として、こういった安全・安心への取り組みにも積極的に参画していくことが必要と考えている。商店街としても地域の宝である子どもたちを見守っていく活動にぜひ参画したい。
- ・放置自転車をなくす活動をしていると、抑止力について効果があると実感する。ぜひ見守り活動を根気良く続けていただきたい。また、まちに死角のない環境をつくるのも大切な行動ではないか。例えば塀の高さを1mくらいにして見通しのいいまちにすると犯罪の芽が摘めるのではないかな。
- ・こんなに豊かな日本で地域のみなさんを集めてあいさつ運動をしなければならないという残念なことになっている。子どもを取り巻く環境、児童虐待や不登校、親の養育放棄などについても話し合いたいと思っている。
→子どもを抱える親が虐待にまで行き着いてしまうことについて本当はもっと議論しなくてはならない。(白井校長)
- ・武蔵小杉駅周辺の再開発でこれから新住民がどんどんやってくる。元々住んでいる我々と新住民とが一致団結して子どもたちを守るというような目に見える活動がなければならぬのではないかな。
- ・武蔵小杉駅周辺のエリアマネジメントを立ち上げたばかりである。新しいビルができていい面ばかりではないので、商業者部会、若手部会を立ち上げ取り組んでいきたい。
- ・子どもは守られる存在だと思うが、自身も危機意識を持つことが非常に大事だと思う。あいさつ運動や子育てサロンなどはきっかけづくりだと思う。子どもの見守り活動は、グループをつくってやらなければならないというわけではなくて、一人一人が、地域みんなが、ご近所同士仲良く子どもたちを見守っていこうというのが基本だと考える。
- ・公共施設、例えば老人いこいの家などで世代交流をし、人権感覚を養ったらどうか。



西丸子小学校で毎週月曜日朝に行われているあいさつ運動



上丸子天神町では西丸子小学校下校時に老人会や保護者が中心になって見守り活動を実施



■ 会議後の地域での活動の広がり

[地域で]

- ・地域の安全安心情報交換会（井田中学校区地域教育会議主催）で、区民会議での取り組みを紹介した。また、近隣の町内会と防犯活動での連携を始めた。
- ・新城小のあいさつ運動では、児童の希望により5、6年生が地域ボランティアとともにあいさつ運動を行うようになった。また、あいさつ運動についてのアンケートを実施した。
- ・新城小学校・新城高校協の道路陥没事故の際、登下校時に近隣町内会の人々が安全確保のため通路誘導した。
- ・丸子地区は、平成19年2月から子育てサロンの中であいさつ運動を取り入れていくこととした。
- ・丸子地区子育て支援推進委員会では、上丸子小学校わくわくプラザでの子育てサロンにおいて小学校「命の授業」の一環として、今後小学6年生と親子（赤ちゃん連れ）の交流を行う予定。
- ・西丸子小学校では安心安全拡大委員会が設けられ、学校、地域、保護者との連携がとれるようになってきた。
- ・木月地区の見守り活動は、民生委員児童委員協議会だけでなく、老人クラブも参加するようになった。
- ・小杉町2丁目町会で「子どもの見守り運動」を展開することを検討している。また、併せて通学路を点検し、安全マップを作成する予定。
- ・小杉町2丁目町会では、「災害時一人も見逃さない運動」として、要援護者の災害時安否確認のための資料作成などの取り組みを始めることとした。
- ・中原区安全・安心まちづくり地域推進協議会では、子どもの見守りという分野に固定することなく、地域全体の防犯・防火意識の高揚を目的に研修会を開催し（平成19年2月20日開催）、高齢者の見守りネットワーク活動などの活動事例報告を通じて区民への啓発に努めた。

[学校及び行政として]

- ・毎月10日の防犯の日を中心に、青色回転灯などを装備した広報車で地域巡回パトロールを実施し、犯罪・火災発生の抑止に努めた。
- ・区役所所有の公用車13台に新たに青色回転灯を装備し、2月から公用車で区内を巡回する際には青色回転灯を点けて区内を走行し、犯罪・火災発生の抑止に努めた。



新城小学校で毎週月曜日朝に行われている
あいさつ運動



運動には呼びかけで、地域ボランティアも
多数参加



- ・平成19年度中原区協働推進事業において、青色回転灯を地域での自主防犯パトロールに貸し出す事業を計画。
- ・警察官 OB の「スクールガードリーダー」2名を配置し、上丸子小学校を拠点に区内小・中学校、高等学校を回っている。また、地域パトロール隊に対して、見回りのポイントなどの相談や指導をしている。
- ・中原小学校では、毎日の児童の下校時刻を地域パトロール隊へ計画的に知らせるなど連絡を密にとることによって、パトロール隊の活動がよりタイムリーなものになっている。

日時：平成 19 年 1 月 23 日(火)
午後 2 時～午後 4 時 30 分
場所：中原区役所
傍聴：15 人

■ 報告：モトスミ・ブレーメン通り
商店街振興組合理事長
伊藤 博



- ・モトスミ・ブレーメン通り商店街では、商店街が環境に取り組んでいることに対し、平成 18 年 12 月に環境大臣表彰を受けた。
- ・ブレーメンという名称の使用許可を受けた際に、ドイツのブレーメンにあるロイドパサージュという商店街との友好関係から環境の取り組みが生まれてきた。
- ・平成 7 年にエコバッグを導入した。ブレーメンから輸入した布製のエコバッグを商店街で販売している。また国際交流センターで商店街の取り組む環境問題について国際シンポジウムを開催した。
- ・商店街でペットボトルや空き缶の回収を行えば、資源の持ち寄りに対してポイントを差し上げることで地域通貨につながり、ひいては商店街の活性化につながる。
- ・一店一エコ運動は、平成 15 年度に市の「頑張れモデル商店街事業」の中で、どこの商店街でもできる、お金をかけずにできるということで始めた。現在 70 店舗が取り組んでいる。
- ・一店一エコ運動では、住吉小学校と井田小学校の子どもたちが「エコ調査隊」として夏休みにそれぞれの店にチェックに行っている。店では店頭にグリーンのポスターで取り組んでいることを掲げ、その取り組みについて調査隊は質問や評価を店に厳しくぶつけるため、各店は緊張感を持って運動に取り組んでいる。
- ・商店街は、基本的には商店街の会員の会費で成り立っている。ブレーメン通り商店街の組合加入率はかなり高いが 100%ではない。大手ナショナルチェーンの中には、組合費、街路灯の電気代一つ払おうとしないところもある。これからの商店街というのは、



店先に掲げられた「一店一エコ運動」の
取り組み内容（ブレーメン商店街）



マイバッグ持参運動として商店街で販売
しているエコバッグ（ブレーメン商店街）

安全・安心のまちづくり等にお金がかかる。そういう現状があることを認識していただきたい。

■ 報告：モトスミ・オズ通り商店街
振興組合副理事長
中野勝久



- ・オズ通り商店街では、空き店舗を「街なかボランティア・ピース」とし、「寺子屋」などの事業を平成14年から始めた。たまたま慶應大学の学生と出会い、私から学生にお願いして一緒に活動するようになった。
- ・「寺子屋」は小学生を対象に、毎週土曜の午後2時から4時までに行っている。子どもたちは100円を持ってきて、勉強が終わった後お菓子やジュースを買い、みんなでお話ししたり遊んだりしている。
- ・商店街とボランティアをどう結びつけるか、学生たちと話を進め、子どもを中心にした異世代間交流に取り組むこととなった。
- ・学生たちは防犯を兼ねて商店街のごみ拾いを行っている。県の補助金で揃いのジャンパーを作った。
- ・7月の七夕イベントは全て学生たちに任せている。子どもたちの絵を商店街の真ん中に展示してまちなか展覧会を開いたり、カンボジアの子どもへの支援として文房具を集めたりしている。
- ・学生と活動しているうちに大学とも連携するようになった。平成17年の1年間は商学部のゼミと一緒に東急東横線の高架化前後の変化について調査した。また、「子ども商店街」というイベントを開く際には、慶應大学に前日お金に関する講義を子どもたちにしてもらい、終わった後には大学の食堂で親子で食事をした。
- ・平日は一時保育事業も行った。最初は無料だったが、だんだん厳しくなってきたため、一般は1時間1,000円、商店街への来客については1時間500円にした。その中でこ



クリーニング店では、ハンガー回収、レジ袋代として神奈川子ども未来ファンドへの募金などを実施（プレーメン商店街）



割り箸ではなく、塗り箸を置いている飲食店（プレーメン商店街）

どもの救急医療の仕方とか、パンの焼き方等の講習を行った。

- ・「街なかボランティア・ピース」は、マンション建設のため平成18年12月に明け渡しとなり、子育て支援事業は全部やめることになった。しかし、「寺子屋」は組合の事務所を改造して続けることができるようになった。
- ・「寺子屋」を出張させることを考えている。また、知り合いにラグビー協会の方がいるので、ラグビーも一緒にやりたい。
- ・「オズファミリークラブ」を会員制でつくった。携帯電話で空メールを打つとすぐに会員になれる。現在、1,000人ほどの会員がいる。これを利用して、災害時には、水の供給や炊き出し等の情報を供給することができる。
- ・地域の人と結びついて、お互い顔を見たらあいさつをし、昔の長屋みたいな、そんな商店街にできたらいいかな、と思っている。

■委員からの主な意見・提案

- ・商店街について、これからこういう商店街を目指してほしいなど、指導、指摘、意見を遠慮なくいただきたい。
- ・ブレーメン通りのマイバッグ持参運動、これは中原区、川崎市全域に言えること。取り組みやすく、環境問題にもいい。
- ・東横線が高架になり、ブレーメンとオズの東西が仲良く一緒に動き出したことをうれしく思っている。新丸子でも高架により東西の商店街でいい意味での行き来の激しさがあり、商店街に活気がある。区全体を見るとその場その場の商店街でイベントを行っているため、ばらばらの感じがする。地域の住民としたら、身近な商店街同士が一つになる形で、まちとして売り出せば商店街の大きさを市民にPRできると思う。
- ・商店街同士は、いい意味でも悪い意味でもライバル意識があるため、なかなか上手く機能しないというのが実情。新城の商店街では夏のイベントを一本化するようになって30年近くなり、今では新城の夏の風物詩になっている感じである。
- ・小杉駅周辺の再開発で新住民が相当入ってくると、既存の商店街はもうちょっと仲良くしないと押されてくるのではないかな。ぜひ、ブレーメンやオズ両商店街のノウハウを採り入れてほしい。
- ・ブレーメンとオズ両商店街は、地域の行事に全て参加してもらっており、地域との連携が非常によく保たれている。
- ・商店街では商品や自転車が路上にはみ出し、歩行者が困惑している。歩行者に迷惑をかけない方法をとってもらいたい。



酒屋での焼酎の量り売り（ブレーメン商店街）



リニューアルした商店街の路面舗装には、以前の舗装材の碎石を使用（ブレーメン商店街）



- ・現在小杉地区で放置自転車の整理活動を行っているが、中原区は自転車に乗りやすいまちであり、また生活の道具として自転車は便利。昨年度からは、歩いて健康を維持しようと呼びかけている。委員のみなさんから区民のみなさんに、まちの中を安心して通れるようなまちになるよう、協力をお願いしたい。
- ・商店のはみ出し陳列は、道路幅員が狭くなることで危険を伴い、また緊急車両の通行に支障をきたすことにもつながることから、商店街の大きな課題になっている。
- ・赤ちゃんを背負いながら買い物に行った時に、お店の人に声をかけてもらってとてもあたたかい雰囲気があった。
最近では大型店が増え、昔、例えば豆腐屋さんだったら朝3時、4時から商売をしていたというような職業観を子どもたちに感じ取ってもらうことが減ってきた。ぜひ商店街の方々に、地元の小中学生、高校生、大学生たちと触れ合いができるよう頑張ってもらいたい。
- ・お年寄りや子どもたち、足の不自由な方などのために商店が中継点になって配達できるようなことができないか。また、昔の御用聞きのように電話一本で持ってきてくれるようなこともできないか。
- ・子育て中のお母さんから聞いた話だと、2、3人の子どもを育てていると買い物も美容院も行けない状況があるようなので、寺子屋のように有償でもいいから子どもを預かってくれる場所ができるといいな、と思った。
- ・商店街が活性化することによって、そこに住んでいる人たちにとっても暮らしやすいまちになる。
- ・市や国からお願いしたり、法制化したりして、コンビニなど大きな企業にも組合に入ってもらいたい。
- ・開業医は全員商店街の組合に入っているだろうか。街路灯維持のための値段は結構かかる。入っていないようだったら、医師会に申し入れをしてください。
- ・「寺子屋」は子どもたちを育てるのに非常にいい方法なのでぜひ進めていただきたいし、私の住んでいる地域の商店街でも考えてみたい。
- ・少子高齢化、女性の社会進出が進む中で、子どもの一時預かりは非常に重要。
- ・私の町会の商店街のあるブティックでは、店主が毎日店の奥で認知症のお年寄りの話し相手をしている。また、ある食料品店では、調理があまりできないお年寄りのために一切れのお魚でもちゃんと調理して、時にはその家まで届けている。こういった小さな活動も行われている。
- ・新丸子駅から等々力まで案内サインを設置すると聞いている。サインに商店街の名前



空き店舗を「街なかボランティアピース」
として様々な事業を展開（オズ商店街）



慶応大学ボランティアサークルによる商店
街の清掃活動（オズ商店街）

を入れるなどすれば商店街の活性化になるのではないかと。

- ・市の「2010 プラン」に商店街の活性化はあるのか。商店街の活性化、また地域の住民との連携を保つことについての窓口を各区でつくった方がいい。
→地域のいろいろな課題を受けとめるべき区役所として努力をしていきたい。また、今日の会議については、経済局商業観光課にしっかり伝えたいと思っている。(区長)
- ・両商店街の努力であれだけいい商店街ができたのだと思う。私は今オーストラリアの学生のカウンセラーをしており、彼女はマイ箸、マイバッグ、マイペット（ボトル）の3点を実践している。ビデオの中で紹介のあった飲食店での塗り箸については、その方針を貫いてほしいし、また我々も何とか支援したい。
- ・ブレーメンでも140店のうち70店ほどしか加盟していないときく。川崎市でも、中原区だけでもいいので加盟率を上げるバックアップをしてほしい。
- ・商店が組合に入ることは、例えば居酒屋が飲酒運転のことを気にしたり、カラオケ店が小さい子の入店を気にしたりすることになるので、地域の安全のためにも大事なことだと思う。
- ・商品や自転車のはみ出しがある店は意外と組合に加入してくれていない。取り締まりをしてもその時だけになってしまう。ブレーメン商店街は幅的には歩いて回るのに非常にいいが、いざ自転車の問題となると交通の障害が出ている。一昨年、商店街をリニューアルしたばかりだが、現在まちづくり協議会を設置して20年、30年後を目指したまちづくりに入っている。電線がなかったり、店がセットバックして店頭のカフェテラスがあったりするきれいなまちづくりを進めている。(伊藤理事長)
- ・今、商店街が抱えている一番大きな問題は、組合への加入。商店街に防犯カメラ一つ設置するにも非常にお金がかかる。都内では20区ほどが区条例で大型店、チェーン店の商店街加入を強制力はないが定めている。川崎市には条例がないため、大手によっては同じ土俵に上がってこない。ある大手は条例ができれば入るとはっきり言っている。一店一エコ運動にしても、大手に対し同じ土俵の上に立って地球環境のことを一緒に考えましょう、といった投げかけをしている。(伊藤理事長)
- ・私の会社のことだが、地域の人と交流を深くしたいと、宮内小学校の児童に会社でつくっているものを見せる機会があった。子どもたちの目の輝きはすばらしかった。後日、子どもたちの作文集が届けられ、地域と交流してよかったと思っている。ほかの工場の経営者にもこんな話をどんどんして、工場も仲間に入れてもらって、これから区の発展のために尽くしていきたい。



小学生を対象にした寺子屋塾を毎週土曜日
午後で開催（オズ商店街）



寺子屋塾では、異学年との交流も生まれて
います（オズ商店街）



- ・バリアフリー調査を行った時に、ある商店から、はみ見出し陳列について外から言ってくれるとやりやすい、という話があった。町内会でまとめて直接言えば、受ける方も受けとってもらえるのではないかな。
- ・私の娘は、買い物は川崎駅前の大型店に行っている。少し時間がつぶせるような、そういう商店づくり、商店街づくりがこれからあってほしい。
- ・中原区でも例えば「デートスポット探検隊」や「のぼりとゆうえん隊」のような活動、まちの活性化のための活動をぜひ商店街、若い人たちと一緒にやっていきたい。
- ・地域に目を向けるようなことが製造業を含めて商店街に出てきていると思う。商売はもちろん基本だが、地域と関わりを持つということの一つ一つの店が考えてほしい。例えば、「一店一いいこと運動」みたいなことを商店街でまとめて情報発信してもらえると地域の人は行ってみたいと思うようになるのではないかな。

■ 会議後の地域での活動の広がり

[地域で]

- ・元住吉周辺の商店街および新丸子駅周辺の商店街と、「自転車と共生するまちづくり推進委員会」とで駅付近の長時間放置自転車対策についてフォーラム開催を検討したい。
- ・「丸子・小杉桜まつり」に「自転車と共生するまちづくり推進委員会」による放置自転車撲滅キャンペーンのための場所の提供の話があった。
- ・中原区商店街連合会で、高齢者の困りごとを支援する事業を目指した研究を始めることとした。
- ・中原区商店街連合会として、商店街で取り組んでいるこども 110 番や見守りへの取り組みを一層きめ細かくし、啓発活動を行う。
- ・中原区商店街連合会では、各地区の商店街の活性化や振興策の参考例として定期役員会において、区民会議のビデオ、議事録などを報告した。
- ・今後商店街の会合の中で、地域との連携策など機会を捉えて話し合っていくよう努めていく。
- ・子育て支援推進実行委員会として、地域の商店主に子育てサロンの案内やボランティア（スタッフ）募集のチラシ、子育て情報紙などの掲示を依頼し、買い物客に広報できるよう検討したい。
- ・子育て支援推進実行委員会として、中原区で創刊した「子ネット通信」を開業医に置いて、子育て中の保護者に配布できるよう検討したい。
- ・子育て支援推進実行委員会として、区内に転入してきたばかりの保護者へ子育てサロ



今日は、寺子屋塾のクリスマスパーティ（オズ商店街）



パーティでは、ゲームやケーキ作り、大学生による演劇などで盛り上がりました（オズ商店街）



ンを通して地元商店街の紹介やお買い物情報などを提供できるような取り組みを検討したい。

- ・平成19年4月1日、小杉地区、丸子地区の14商店街、市民文化団体及び行政がパートナーシップを組み、「丸子・小杉桜まつり」を開催することとなった。

[行政として]

- ・モトスミ・オズ通り商店街が実施しているメール配信サービス「オズファミリークラブ」において、子育て中の親子に向けた情報配信をしたいとの申し出があり、区子育て情報ガイドブックや子ネット通信を送付している。
- ・新丸子駅から等々力緑地へ誘導するために設置した案内サイン（計3カ所）に、商店街の名前を入れた。
- ・「川崎市商店街連絡協議会」において、商店街とチェーン店がお互いに認識を共有し、共に商店街の活性化や地域貢献に取り組んでもらえるよう、区民会議における意見を伝えたい。
- ・商店街が地域の情報交換や交流の場など地域住民の生活を支援する地域コミュニティの核として期待されており、今後区役所としても地域と商店街との連携を一層強化していく。



1 「地域で支える高齢社会」～高齢者の健やかな生活を地域でどう支えるか～

■意見・提案

- 高齢になってもできるだけ自立して生活できるよう、そのために近隣との交流をもっと深くすることを考えたい。
- いろいろ相まった形をつくっていき、お互いの意見をよく聞き、また若い人も参加できるようなプランニングにすれば、生き生きとした高齢社会に結びつくのではないかな。
- 子育てサロンとすこやか活動とを合体して、地域の家族となるよう、高齢者と保護者、子どもとの触れ合いの場をつくったらどうか。
- 高齢者のことについて知らないお母さんがたくさんいるので、もっと知ってもらえる機会ができればいいと思う。
- 区民会議を発信基地にして協力者を求めていけば、すこやか活動もぐっと広がってくるのではないかな。
- 高齢者のみなさんも若いお母さんも多摩川に一度来て、一緒に仲良く、野草の天ぷらを食べたり、かっぱの川流れをしたりして「とどろき水辺の楽校」を体験活動すれば、いろんな活動が広がっていくのではないかな。
- 高齢者、特に一人暮らしで家に閉じこもっている高齢者をいかに地域に出すかを考えなくてはならないのではないかな。
- 高齢者の一人暮らしだと地域に出にくい。家に閉じこもったままだと、認知症にもなる。知っている人がいたりすると出てくるので、知り合いを経由したらどうか。

■地域での活動の広がり

〔地域で〕

- 丸子地区では高齢者を対象者にした「丸子地区すこやか会」を立ち上げ、丸子多摩川老人いこいの家の開所をきっかけに、丸子地区全体で取り組みを始めた（以前は9町会中5町会での「すこやか会」だった）。
- 「丸子地区すこやか会」の活動を支援するため、12月に「丸子地区すこやか活動支援推進委員会」を立ち上げ、すこやか活動を支援するボランティアを募集した。
- 木月住吉町会で、「おしゃべり会」の準備を始めた。
- 小杉第1・2地区社会福祉協議会合同で、町会、民生委員、老人クラブ、ボランティア団体などが連携し、「わたしの町のすこやか活動推進委員会」の立ち上げについて検討を始めた。
- 小杉2丁目町会では、高齢者ネットワークの構築について検討を始めた。
- 小杉地区では「小杉地区福祉の心推進実行委



山王会館での丸子地区すこやか活動



員会」を立ち上げ、小杉地区町内会連合会、小杉地区社会福祉協議会と合同で2月に「福祉の心を共に学び合おう」という講座を開催した。150余名が集まって、地域のボランティア活動や高齢者の生きがいについての話し合いと介護予防体操を行った。

- 「とどろき水辺の楽校」において、高齢者の方に多摩川の昔の様子を伝えてもらうセミナーの開催を予定している。
- 「多摩川とどろき土手の桜を愛する会」による桜の記念植樹に地域の高齢者に参加してもらえよう、老人会を通じて呼びかけをしている。
- 大戸地区の子育てサロンでは、地域の引きこもりがちなお年寄りに声をかけ、子育てサロンの案内やスタッフとして参加してもらい、ボランティア活動を通して元気になってもらった。
- 等々力老人いきいの家で開催している子育てサロンでは、高齢者と子どもがあいさつをして、ふれあいコミュニケーションを図っている。

〔行政として〕

- 「わたしの町のすこやか活動推進委員会」の趣旨を町内会、老人クラブ、地区民生委員児童委員協議会、ボランティア活動団体などに説明し、啓発活動を行った。
- 中原区社会福祉協議会と連携し、他区の活動団体を招き地区社会福祉協議会関係者を対象に「わたしの町のすこやか活動推進委員会」の研修を3月8日に開催した。
- 西丸子小学校区で活動しているボランティア団体に小学校区の町会長、民生委員、老人クラブ、社会福祉協議会との連携を勧め、関係調整し、ネットワーク作りを行った。平成19年度に「わたしの町のすこやか活動推進委員会」の活動団体として申請予定である。
- 「丸子地区すこやか活動支援推進委員会」が行ったボランティア募集を支援するため、インターネットによる広報を行った。
- 「小杉地区福祉の心推進実行委員会」の活動を支援する広報を行った。
- 区民を対象に、介護予防への関心を高め、保健福祉センターが実施する各種介護予防事業に積極的に参加し、自身の介護予防に努めることができる人の育成を始めた。意識や知識を高め、介護予防活動を行う自主グループのボランティアとして活動できる人の育成をめざしている。
- 高齢者の心身の健康の維持、保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助、支援を包括的に行うため設置した地域包括支援センターで高齢者の実態把握に取り組んでいる。
- 中原区老人クラブの健康づくり活動、地域づくり活動に職員を派遣し、支援を行った。
- 介護予防の自主活動団体に、地域の町会や地区社協などと連携した「すこやか活動」の取り組みを呼びかけた。
- 福祉まつりにおいて、高齢者に必要な支援を包括的に行う拠点としての地域包括支援センターの広報を行った。



2 「地域の安全・安心をどう守るか」～子どもの見守り活動を中心に～

■意見・提案

- 青少年指導員とPTAだけでは見守り活動をやり切れないところがあるから、ぜひ町内会などにも輪を広げていきたい。
- 事件については警察とも情報共有して、どの辺りにポイントを置いたらよいか検証をしたらどうだろうか。
- 川崎は外から来ている人がたくさんいるので、町内会にできるだけ入ってもらい行事に参加してもらえるような雰囲気づくりが大切ではないか。
- 地域力を高めていくことが大事ではないか。地域で叱り育て、地域で活動していくことを心がけていきたい。
- 買い物しやすい商店街をつくっていく一環として、安全・安心への取り組みにも積極的に参画していくことが必要と考えている。商店街としても地域の宝である子どもたちを見守っていく活動にぜひ参画したい。
- まちに死角のない環境をつくるのも大切な行動ではないか。例えば塀の高さを1mくらいにして見通しのいいまちにすると犯罪の芽が摘めるのではないか。
- 武蔵小杉駅周辺の再開発でこれから新住民がどんどんやってくる。元々住んでいる我々と新住民とが一致団結して子どもたちを守るというような目に見える活動がなければならないのではないか。
- 子どもの見守り活動は、一人一人が、地域みんなが、ご近所同士仲良く子どもたちを見守っていこうというのが基本だと考える。
- 例えば、犯罪防止を呼びかけるのぼり旗を作って、地区の役員の家先に立てれば、犯罪抑止力につながるのではないか。

■地域での活動の広がり

[地域で]

- 地域の安全安心情報交換会（井田中学校区地域教育会議主催）で、区民会議での取り組みを紹介した。また、近隣の町内会と防犯活動での連携を始めた。
- 新城小学校のあいさつ運動では、児童の希望により5、6年生が地域ボランティアとともにあいさつ運動を行うようになった。また、あいさつ運動についてのアンケートを実施した。
- 新城小学校・新城高校脇の道路陥没事故の際、登下校時に近隣町内会の人々が安全確保のため通路誘導した。
- 丸子地区は、平成19年2月から子育てサロンの中であいさつ運動を取り入れていくこととした。
- 丸子地区子育て支援推進委員会では、上丸子小学校わくわくプラザでの子育てサロンにおいて小学校「命の授業」の一環として、今後小学6年生と親子（赤ちゃん連れ）の交流を行う予定。
- 西丸子小学校では安心安全拡大委員会が設けられ、学校、地域、保護者との連携がとれるようになってきた。

- 木月地区の見守り活動は、民生委員児童委員協議会だけでなく、老人クラブも参加するようになった。
- 小杉町2丁目町会で「子どもの見守り運動」を展開することを検討している。また、併せて通学路を点検し、安全マップを作成する予定。
- 小杉町2丁目町会では、「災害時一人も見逃さない運動」として、要援護者の災害時安否確認のための資料作成などの取り組みを始めることとした。
- 中原区安全・安心まちづくり地域推進協議会では、子どもの見守りという分野に固定することなく、地域全体の防犯・防火意識の高揚を目的に研修会を開催し（平成19年2月20日開催）、高齢者の見守りネットワーク活動などの活動事例報告を通じて区民への啓発に努めた。
- 商店街連合会に小学校から不審者情報が寄せられることがあり、商店街会長へ知らせるようにしている。「こども110番」への取り組みも、商店街連合会としてこれからきめ細かくやっていきたい。
- NPO法人「小杉駅周辺エリアマネジメント」を立ち上げたばかりである。安全安心なまちづくりを目指して、新旧住民が協力して地域パトロールなどに取り組んでいきたい。



上平間第2町会で行われている独居老人等見守りネットワーク活動

〔学校及び行政として〕



青色回転灯を装着した巡回車

- 毎月10日の防犯の日を中心に、青色回転灯などを装備した広報車で地域巡回パトロールを実施し、犯罪・火災発生の抑止に努めた。
- 区役所所有の公用車13台に新たに青色回転灯を装備し、2月から公用車で区内を巡回する際には青色回転灯を点けて区内を走行し、犯罪・火災発生の抑止に努めた。
- 平成19年度中原区協働推進事業において、青色回転灯を地域での自主防犯パトロールに貸し出す事業を計画。
- 警察官OBの「スクールガードリーダー」2名を配置し、上丸子小学校を拠点に区内小・中学校、高等学校を回っている。また、地域パトロール隊に対して、見回りのポイントなどの相談や指導を行っている。
- 中原小学校では、毎日の児童の下校時刻を地域パトロール隊へ計画的に知らせるなど連絡を密にとることによって、パトロール隊の活動がよりタイムリーなものになってきている。



3 「地域の中の商店街」～地域と商店街の新たな連携を考える～

■意見・提案

- 身近な商店街同士が一つになる形でまちとして売り出せば、商店街を市民により大きくPRできると思う。
- 小杉の再開発で新住民が相当入ってくるので、既存の商店街同士はもうちょっと仲良くしたい。ぜひ、プレーメンやオズ両商店街のノウハウを採り入れてほしい。
- 商店街では商品や自転車が路上にはみ出し、歩行者が困惑している。委員のみなさんからも区民のみなさんに、まちの中を安心して通れるよう、協力をお願いしたい。
- 商売の職業観を地元の子どもたちを感じ取ってもらえるような機会を、ぜひ商店街の方々につくってもらいたい。
- お年寄りや子どもたち、足の不自由な方などのために商店が中継点になって配達できるようなことができないか。また、昔の御用聞きのように電話一本で持ってきてくれるようなこともできないだろうか。
- 商店街の中に有償でもいいから子どもを預かってくれる場所ができるといいな、と思う。
- 市や国からお願いしたり、法制化したりして、コンビニなど大きな企業にも組合に入ってもらいたい。
- 新丸子駅から等々力緑地まで設置する予定の案内サインに、商店街の名前を入れるなどすれば商店街の活性化になるのではないかな。
- 商店街の活性化、また地域の住民との連携を保つことについての窓口を各区でつくった方がいいと思う。
- はみ出し陳列について外から言ってくれるとやりやすい、という話があった。町内会でまとめて直接言えば、受ける方も受けとってもらえるのではないかな。
- 出掛けて少し時間がつぶせるような、そういう商店づくり、商店街づくりがこれからあってほしい。
- 「一店一いいこと運動」みたいなことを行い、商店街でまとめて情報発信してもらえると地域の人は行ってみたいと思うようになるのではないかな。
- 健康や自転車問題解決のために「歩こう運動」みたいなことを実施したらどうか。
- 高齢者が駅周辺の商店まで行くのはなかなか大変。今まで地域と商店街との話し合いの場がなかった。高齢者が買いやすくなる工夫を考えるような話し合いを一緒にしていきたい。

■地域での活動の広がり

[地域で]

- 元住吉周辺の商店街および新丸子駅周辺の商店街と、「自転車と共生するまちづくり推進委員会」とで駅付近の長時間放置自転車対策についてフォーラム開催を検討したい。
- 「丸子・小杉桜まつり」に「自転車と共生するまちづくり推進委員会」による放置自転車撲滅キャンペーンのための場所の提供の話があった。
- 中原区商店街連合会で、商店街で高齢者の困りごとを支援する事業を目指した研究を始めることとした。

- 中原区商店街連合会として、商店街で取り組んでいることも110番や見守りへの取り組みを一層きめ細かくし、啓発活動を行う。
- 中原区商店街連合会では、各地区の商店街の活性化や振興策の参考例として定期役員会において、区民会議のビデオ、議事録などを報告した。
- 今後商店街の会合の中で、地域との連携策

など機会を捉えて話し合っていくよう努めていく。



自転車と共生するまちづくり委員会による活動

- 子育て支援推進実行委員会として、地域の商店主に子育てサロンの案内やボランティア（スタッフ）募集のチラシ、子育て情報紙などの掲示を依頼し、買い物客に広報できるよう検討したい。
- 子育て支援推進実行委員会として、中原区で創刊した「子ネット通信」を開業店に置いて、子育て中の保護者に配布できるよう検討したい。
- 子育て支援推進実行委員会として、区内に転入してきたばかりの保護者へ子育てサロンを通して地元商店街の紹介やお買い物情報などを提供できるような取り組みを検討したい。



区民が作成した子育て情報誌

「このゆびとまれ」と「子ネット通信」

- 平成19年4月1日、小杉地区、丸子地区の14商店街、市民文化団体及び行政がパートナーシップを組み、「丸子・小杉合同桜まつり」を開催することとなった。
- 地域の商店街の会長に第3回区民会議の報告をしたところ、1カ月後、商店街の会館で地域の小学6年生の版画展を行うことになった、と会長から案内のチラシをもらった。展覧会に行ってみると、小学生の祖父母まで訪れていて賑わっていた。会長は、これから地域とどう関わりを持ちながら何をしていくか考えている、と話していた。この会議から生まれたものだと思っている。

〔行政として〕

- モトスミ・オズ通り商店街が実施しているメール配信サービス「オズファミリークラブ」において、子育て中の親子に向けた情報配信をしたいとの申し出があり、区子育て情報ガイドブックや子ネット通信を送付している。
- 新丸子駅から等々力緑地へ誘導するために設置した案内サイン（計3カ所）に、商店街の名前を入れた。
- 「川崎市商店街連絡協議会」において、商店街とチェーン店がお互いに認識を共有し、共に商店街の活性化や地域貢献に取り組んでもらえるよう、区民会議における意見を伝えたい。
- 商店街が地域の情報交換や交流の場など地域住民の生活を支援する地域コミュニティの核として期待されており、今後区役所としても地域と商店街との連携を一層強化していく。

■ 区民会議をきっかけに始まった新たな取り組み

[地域で]

- 会議をきっかけに第1回目の報告者三川幸子氏と「丸子子育て支援推進委員会」とで関わりを持つようになり、「トロッコ押し手の会 MAMA の会」の活動報告と「地域における子育て支援と関わりについて～共に育ち・役立つボランティアとして～」と題した講演を平成19年2月22日に開催してもらった。
- 会議後、三川氏の「トロッコ押し手の会」と鈴木委員の「とどろき水辺の楽校」とで区民祭ブースなどを通じて交流が生まれた。
- 尾澤委員（中原区商店街連合会）と芳賀委員（自転車と共生するまちづくり委員会）とで、新城・武蔵中原駅周辺の放置自転車対策について連携を図っていくことになった。
- 藤枝副委員長の協力により、区内全町会に「自転車と共生するまちづくりルール」の回覧を継続して行うこととなった。
- 高島委員（中原区文化協会）と鈴木委員とで、多摩川渡し舟のイベントを一緒に行うことになった。
- 吉房委員（中原区交通安全対策協議会副会長）が代表のNPOに鈴木委員が協賛して、群馬県旧東村からヤシオツツジを中原区に運ぶこととなった。
- 生富委員（医師）から声かけがあり、子育てサロンの案内チラシを病院の待合室に置いてもらえるようになった。
- 小杉地区地域福祉講座で、子育てサロンの様子をパネル展示し、活動紹介をした。



■ これからの区民会議に向けて

[会議運営・テーマについて]

- 委員だけでなく、広く市民からの意見も聞きたい。
- 悪い事例や改善点なども考える場にしたい。
- テーマについて、深く討議する必要があるのではないか。
- 民生委員により“災害は一人も見逃さない運動”を始めるが、地域の防災への取り組みについても知りたい。
- 会議における活動報告が長すぎる感がある。どうするか、どうなっているかの委員の意見を取り入れ、新しい方法を考える時間がほしいと思う。
- 地域への取り組みについて、各委員は各専門分野の代表なので、全地域への広がり難しいのではないか。テーマに関連する団体に事前アンケートなどを実施し、検討材料にする必要があると思う。また、その関連団体の代表者に傍聴してもらった方がより地域に広まると思う。
- 区政状況など、中原区の現況を勉強したい。
- 会議の最後に、当日の発言を議長よりまとめて発表してもらってはどうか。
- みなさんもっと自由に、破天荒な意見を出し合い、百花繚乱の会で終わることも時には必要だと思う。

- 検討されたテーマについて、その後各団体に持ち帰っての話し合いや取り組みなどについての報告は、今後必要だと思う。
- 会場の座席の配置が大きすぎて意見を出しにくい。もう少しリラックスして話し合える雰囲気にしてほしい。
- 若い人たちによる音楽のまちづくりやスポーツ、マナーアップ、企業の社会貢献などについても会議のテーマとして議論したい。



【地域での取り組みについて】

- マイバッグ、マイ箸、マイボトルを中原発で広めたい。
- これからの地域社会を考えると、町会が中心となって民生委員・児童委員や社会福祉協議会、老人会、子供会、自主ボランティアなどと協働して、住民ニーズの多様化に対応していかななくてはならない。活動の核なるのは、地域をよく把握している町会ではないだろうか。人材の確保は難しいが、根気よく住民ボランティアを募集すること、また、他団体と横のつながりを密にすることが、地域福祉を推進する上で大切である。



●休日にはスポーツをしている若いお父さんたちが多いので、その中でネットワークを作ってもらおうとボランティアに参加する人も出てくるのではないかな。

- 社会福祉協議会などでボランティアを募集してもなかなか地域に根づかない。地域で募集して、地域で育てることが大切だと思う。
- 受け入れる側は、ただボランティアを求めるだけでなく、魅力的な計画をつくってボランティアにつなげる必要があるのではないかな。
- 区内のほとんどの町会で世代交代が進んでおらず、若い人や団塊の世代をなんとか町会に取り込んでいきたい。区役所に相談窓口をつくり、地域デビューの支援をしてほしい。

【行政について】

- 区民会議の広報を検討してほしい。ホームページを使える人ばかりではない。
- 区の広報やホームページを利用して、各団体の活動を紹介し、広く参加を呼びかけてほしい。

【行政としてこれから】

- 平成19年度中原区協働推進事業において「市民活動支援サイト」を立ち上げ、町会を含む区内市民活動団体の情報交換の場を構築することを予定している。また、まちづくり推進委員会がサイトを運営するよう調整している。
- 再開発が進む小杉駅周辺において、新旧住民がともにまちづくりを進められるよう設立したNPO法人「小杉駅周辺エリアマネジメント」を支援していく。
- 市政日より中原区版では、地域活動がさらに広がるよう地域活動取材し、トップで特集記事として紹介している。また、区民会議については、区版で随時特集を組んだり、ホームページで紹介したりするなど複数の媒体を用いて広報に努めていく。

■ 今後の検討対象となるテーマ（第2回区民会議資料）

1 地域の安全・安心をどのように守るか

①子どもの安全をどのように守るか

学校、PTA、地域（町内会・自治会、地域教育会議、老人クラブ、民生委員児童委員、青少年指導委員、こども会、こども支援ネットワーク等）および警察、行政（区、教育委員会など）との連携により、子どもの安全をどう守るか。

②高齢者の安全・安心をどのように守るか

高齢者の災害時などの救助、および独り住まいや高齢者のみの世帯の日常的な安否確認などをはじめとして、高齢者が地域で安全に安心して生活していくためには、地域においてどのような取り組みを、どのように進めていくことが必要か。

③地域を災害からどのように守るか

各地で大きな地震が頻発しているが、首都圏においても、大きな地震はいつ起きてもおかしくない状況にあり、その備えを地域社会全体で行っておく必要がある。また、火災や水害などについても、日常・普段の備えが必要である。（安全・安心まちづくり地域推進会議、・自主防災組織連絡協議会、中原防犯協会、中原防火協会、中原消防団などの活動）

④交通安全対策をどのように進めていくか

ここ数年、区内の交通事故は、件数、死者ともに減少傾向にあるが、高齢者や子どもが事故に巻き込まれるケースはいまだに後を絶たない。交通事故は、被害者はもちろん、加害者となった者にも厳罰が下され、双方が不幸に陥ることとなる。また、自転車事故の多発や飲酒運転などによる事故を見ると、交通安全に関するマナー向上も強く求められている。区民の生活を守るため、交通安全への取り組みをどのように進めていくか。

・交通安全対策協議会、交通安全母の会、交通安全協会、交通安全運転管理者会

2 地域での子ども支援をどのように進めるか

三世代同居世帯の減少や地域社会の人と人とのつながり・きずなが希薄になってきていることから、家庭や地域における育児力の低下が指摘されているが、特に中原区においては、核家族世帯が多く、また、アパート・マンション住まいの区民が多いことから、ややもすると「密室育児」、「孤立した子育て」に陥りやすい地域環境にある。こうした状況を克服し、保護者も子どもも安全で安心で健やかに子育て、子育てができる環境を整えていく必要がある。

①保護者自身による仲間づくりの推進

・自主子育てグループ

②地域における子育て支援活動の推進

- ・子育て支援推進実行委員会、子育てサロン、子育てネットワーク

③学校と地域との連携の推進

- ・読書、花壇の手入れ、地域の歴史などのボランティア活動
- ・地域教育会議の活動
- ・子どもの安全を守る活動（民生委員児童委員、老人クラブなどの活動）
- ・区子ども総合支援、児童相談所などとの連携強化



区役所子ども総合支援担当窓口

④子どもの健全育成活動の推進

- ・青少年指導員連絡協議会、PTA協議会、こども会、こども支援ネットワーク

3 高齢者の健やかな生活を地域でどう支えるか

日本は、高齢化率（全人口に占める65歳以上人口の割合）が21%となり、世界一の高齢社会となった。いわゆる団塊の世代があと数年で高齢者の仲間入りすることなどから、日本における高齢化率は、世界にも類例のないスピードで上昇が続けることが予想される。医療、介護、年金などの制度問題など、高齢者の増加による克服すべき諸課題も多いが、他方で高齢者は豊かな経験を持ち、そうした知識経験を生かしながら、多くの方々が地域での活動にも取り組んでいる。高齢者が、地域でいつまでも健やかに、生活を楽しみながら生き生きと暮らしていくことができる地域社会をつくるためには、どのような取り組みが必要か。

①介護予防活動

- ・わたしの町のすこやか活動
（大戸地区、丸子地区）

②高齢者の地域活動

- ・老人クラブ連合会

③健康づくり活動

- ・食生活改善推進員連絡協議会、運動普及員連絡協議会、各健康づくりグループ

④文化・芸術活動

- ・文化協会、各地域での文化・芸術活動



食生活改善推進員による「お食事ボランティア」活動

4 共に支え合う地域福祉社会をどのようにつくるか

日本社会が真の「成熟社会」になっていくためには、身近な地域環境の整備を進めるとともに、地域に住み、地域に暮らす全ての人々が、安全・安心で快適に暮らすことのできる地域福祉社会を、地域の支え合いによってつくっていく必要がある。

- ・社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、保護司会、身体障害者児団体協議会等の活動



5 地域の自治活動・市民活動の活性化をどのように進めるか

地域社会における人間関係の希薄化やアパート・マンションの増加などにより、町内会・自治会活動への住民の参加意識が薄れつつあり、また、役員をはじめとして中心となって活動する人々の高齢化も懸念されているが、一方で、災害や犯罪から子どもや高齢者をはじめとする地域の住民全体を守り、地域社会の安全・安心を確保する活動や地域の環境を守り・育てる活動など、地域を基盤とした活動は一層その重要性を増している。

また、現在、地域では“団塊の世代が地域に帰って来る”時期を迎えており、同世代の人々がさまざまな経験を通して培った知識・能力を生かして地域で暮らし、地域に貢献することによって地域の活性化を図るしくみを築いていくことも重要な課題となっている。こうしたことを踏まえて、町内会・自治会などのいわゆる地域コミュニティの活性化とさまざまな分野のテーマ型コミュニティといわれる市民活動の活性化を共に進めていくためにはどのようなことが必要か。

- ①町内会・自治会活動の活性化をどのように進めるか。
- ②マンションなど大規模集合住宅の自治活動の促進および既存地域住民との交流をどのように進めるか。(武蔵小杉駅周辺再開発地域など)
- ③市民活動団体など相互の情報交換、情報発信、ネットワークづくりをどのように進めていくか。
- ④団塊の世代などの市民活動への参加をどのように進めるか。

6 地域でのスポーツ・健康づくりをどのように進めるか

- ① 地域におけるスポーツ活動の推進
 - ・体育指導委員会、こども会、町内会・自治会（ソフトボールなど）、婦人会・PTAなどの活動、地域スポーツ活動振興会
- ② 地域における健康づくり活動
 - ・中原歩こう会

7 地域の自然環境を守り、育て、楽しむ活動をどのように進めていくか

高齢社会においては、多くの人々が、多くの時間を地域で暮らし、生活することになるが、そうした地域での生活を快適に過ごすためには、地域の自然環境をお互いに協力し合いながら、守り、育て、そして楽しむことは欠かせないことである。

- ①多摩川の自然を守り、育て、遊び、楽しむ活動
 - ・多摩川美化活動、とどろき水辺の楽校、桜を植える会など
- ②地域の自然を守り、育て、楽しむ活動
 - ・20年構想委員会・パンジー宣言、花クラブ実行委員会、上丸子緑道
 - ・中原区市民健康の森を育てる会
- ③ニケ領用水、江川、渋川などの環境を守り、育てる活動
 - ・ニケ領用水桃の会、渋川住吉桜・今井桜保存会（観光協会）



「とどろき水辺の楽校」

8 快適な地域環境づくりをどのように進めるか

①地域の美化活動

- ・地域および多摩川・ニケ領用水・江川・渋川などの美化活動の推進
- ・ポイ捨て禁止、路上喫煙禁止などの推進

②省資源・リサイクル型社会への取り組みの推進

- ・ごみ減量とリサイクル社会に向けた地域での取り組みの推進

③放置自転車をなくし、自転車と共生するまちづくりの推進

- ・自転車と共生するまちづくり活動の推進

9 地域における文化・芸術活動の輪をさらに広げていくにはどうするか

①地域におけるさまざまな文化・芸術活動の活性化を図る取り組み

- ・市民館や地域サークルの日常的な文化・芸術活動の活性化

②団塊の世代の大量退職期を契機とする文化・芸術活動の活性化

- ・シニア人材活用施策と連携した取り組み

10 若い世代の交流による地域の活性化をどのように推進するか

①若い世代による活発な音楽活動と地域・商店街の活性化

・「In Unity」などによる若い世代の音楽活動、商店街青年部などによるストリートミュージシャンの支援活動、市民ミュージアムなどと連携した音楽活動など、“音楽のまちづくり”と連携した地域・商店街の活性化をどのように推進するか。



「In Unity 2007」

②スポーツを通じた地域の活性化

- ・川崎フロンターレの支援等

11 地域コミュニティの核としての商店街の活性化をどう進めるか

地域コミュニティにとって、商店街の存在は重要かつ欠かせない存在である。商店街の活性化は地域社会にとっても大きな課題である。

①地域コミュニティにとって商店街はどのような存在か。また、どうあってほしいか。

②商店街の活性化に向けたさまざまな試みと実績

- ・モトスミ・ブレーメン通り商店街、モトスミ・オズ通り商店街、向河原商店街などの取り組み

12 企業（事業者）の社会貢献と地域社会のあり方

自治基本条例でも明らかにされているように、企業（事業者）も市民のひとりとして、共に「快適で暮らしやすい地域社会の創造」を目指す主体として存在しており、いわゆる企業の社会的責任（CSR）を果たすとともに、積極的に地域社会に貢献していくことが求められている。現在もさまざまな形で地域貢献活動が行われているが、さらにその活動を推進していくためには何が必要か、また、どのような活動が求められているかを検討する。



13 地域の資源、宝を発見し、楽しみ、守る活動をどう進めるか

- ①区内の歴史的遺産を発見し、楽しみ、守る活動
 - ・神社、仏閣、史跡などを守り、楽しむ
- ②区内の自然を守り、育て、楽しむ
 - ・多摩川、二ヶ領用水、江川、渋川、井田山など
- ③区内の文化、芸術、スポーツ活動
 - ・市民ミュージアム、まんが寺など

14 人権に配慮した共生のまちづくりをどのように進めるか

地域に暮らすさまざまな人々が、それぞれの個性を認め合いながら、お互いの人権を尊重し、共に助け合い支え合いながら生きていくことは、地域社会で暮らす人々の基本とすべき考えであり、昨年制定された川崎市自治基本条例の前文においても「私たち市民は、…川崎市民としての誇りを持ち、一人ひとりの人権が尊重される『活力とうるおいのある市民都市・川崎』の創造を目指します。」と記されている。こうした考え方にに基づきながら、人権に配慮した共生のまちづくりをどのように進めていくか。

15 地域活動の活性化のため、公共施設の有効活用をどのように進めていくか

これまでの公共施設の多くは、限られた行政目的のために設置され、利用されてきた。しかし、社会状況の変化やライフスタイルの変化などにより、当初の設置目的とは別の用途での活用や開館時間の延長などを求める声が挙がっている。

また、こうした公共施設は、地域におけるさまざまな世代のさまざまな活動を支える拠点としても貴重な資源であり、団塊世代の大量退職期を目前に控えた今日、その活用方法の具体的な検討は、喫緊の課題である。公共施設の有効活用を促進するために、公平・公正な利用法はどうあるべきか、管理のあり方はどうあるべきかなどを具体的に検討し、取り組みを進めていく必要がある。

- ・学校、幼稚園、保育園、子ども文化センター、老人いこいの家など

【第1期中原区区民会議委員】

No.	氏 名	分 野	地域での主な役職
1	いくとみ まさあき 生富 公明	公募	医師
2	おざわ りょうじ 尾澤 良二	団体(⑤産業・まちの活力)	中原区商店街連合会会長
3	こすだ かずあき 小須田 和昭	団体(④自然・生活環境)	中原区市民健康の森を育てる会会長
4	さの あいこ 佐野 愛子	公募	中原区青少年指導員連絡協議会会計
5	すずき まちこ 鈴木 眞智子	区長推薦	「とどろき水辺の楽校」代表幹事
6	たかしま あつこ 高島 厚子	団体(⑥文化・観光)	中原区文化協会副会長
7	たけい 斎 竹井 斎	団体(⑦地域組織・まちづくり)	中原区まちづくり推進委員会委員長
8	ないとう ゆきひこ 内藤 幸彦	公募	なかはら20年構想委員会副委員長
9	にかみ きくお 仁上 喜久夫	団体(⑤産業・まちの活力)	(社)川崎中原工場協会会長
10	はが まこと 芳賀 誠	区長推薦	自転車と共生するまちづくり委員会委員長
11	はら りょうぞう 原 良三	団体(②福祉・健康)	川崎市中原区社会福祉協議会会長
12	ひかた じょうじ 東田 乗治	団体(③子育て・教育)	中原区青少年指導員連絡協議会会長
13	ふじえだ しげゆき 藤枝 重之	団体(⑦地域組織・まちづくり)	中原区町内会連絡協議会会長
14	まつもと れいこ 松本 玲子	団体(③子育て・教育)	中原区子育て支援推進実行委員会
15	みずしな みか 水品 美香	団体(③子育て・教育)	中原区PTA協議会会長
16	みたけ かずこ 三竹 和子	団体(②福祉・健康)	中原区民生委員児童委員協議会会長
17	みやもと おしひこ 宮本 良彦	団体(⑦地域組織・まちづくり)	中原地区連合議長
18	モハammad・アンワル	公募	前・川崎市外国人市民代表者会議委員長
19	かわ いこ 横川 郁子	区長推薦	試行の中原区区民会議議長
20	よしふさ しゅうぞう 吉房 正三	団体(①防災・地域交通)	川崎市中原区交通安全対策協議会副会長

【中原区区民会議参与】

川崎市議会議員

No.	氏 名	会 派
1	いしこ てるみ 市古映美	共産党
2	しほだ とものが 潮田 智信	民主・市民連合
3	むら かつ 志村 勝	公明党
4	たての ちあき 笠野 千秋	民主・市民連合
5	とくたけ 喜義 徳竹 喜義	共産党
6	なが まさよし 長瀬 政義	自民党
7	はら しゅういち 原 修一	自民党
8	ひがし まさのり 東 正則	民主・市民連合
9	まつばら しげふみ 松原 成文	自民党
10	よしおか としすけ 吉岡 俊祐	公明党

神奈川県議会議員

No.	氏 名	会 派
1	ふかた こうたけ 滝田 孝徳	民主党・かながわクラブ
2	たじま しんじ 田島 信二	自民党





平成 19 年 3 月

中原区区民会議

中原区役所
総務企画課企画調整担当

TEL 044(744)3149

FAX 044(744)3340

65soumu@city.kawasaki.jp



